

BEETHOVEN

# 仲道郁代 × 4大ソナタ

ザ・シンフォニーホール  
9年ぶりのリサイタルが決定！

ベートーヴェン  
ピアノ・ソナタ

第8番 ハ短調 op.13 「悲愴」

第14番 嬰ハ短調 op.27-2 「月光」

第21番 ハ長調 op.53 「ワルトシュタイン」

第23番 ヘ短調 op.57 「熱情」

©Kiyotaka Saito

2022 1.16 (日) 14:00開演 (13:00開場) ザ・シンフォニーホール  
全席指定 4,400円 (税込) 主催：ザ・シンフォニーホール

ご予約・お問合せ ■ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (火曜定休) <https://www.symphonycall.jp>

プレイガイド

■e+(イープラス) <https://eplus.jp/symphonycall> (パソコン・携帯)

■ローソンチケット <https://l-tike.com/> [Lコード:53662] ■チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード:198-401]

\*未就学児のご入場は御遠慮いただいております。\*やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。予めご了承ください。



# 仲道郁代 × 4大ソナタ

ピアニストの仲道郁代が、久しぶりにザ・シンフォニーホールに登場する。深い思索を経て紡ぎ出される彼女の演奏は細密画のようにこまやかで、そのしっとりとした美しい響きに多くのファンが魅了される。

ベートーヴェン演奏をライフワークとする仲道は、これまで何度もベートーヴェンのピアノソナタ全32曲に挑んできた。そのなかから、2022年1月に開催されるリサイタルで、彼女は「4大ピアノソナタ」を披露する。

ベートーヴェンのピアノソナタは、彼の創作の原点と言える。これら4曲は、彼のピアノソナタの創作の転機を示す。緩急の対比と作品全体の循環性を強く意識した第8番「悲愴」、幻想的な新しい世界を切り開いた第14番「月光」、彼の意図した即興性が自在に表現された第21番「ワルトシュタイン」、そして第24番「熱情」は、劇的な表現を超えた詩的な世界が織り込まれている。

ザ・シンフォニーホールの開館40周年を記念するこのリサイタルで、深化し続ける仲道のベートーヴェンの世界にじっくりと耳を傾けていただきたい。

文 道下京子

## だからこそベートーヴェン！ ～音楽の意思を聴く

このコンサートが開催される頃、  
私たちの生活はどのようになっているのだろうか。  
いわゆる日常というものを取り戻しているのだろうか。

そもそも日常とは、何だったのだろうか。

人が生きていく日常とは、何か。

ベートーヴェンの音楽は、日常を人が生きていく、  
まさにそのことを問い続けているのだと私は思う。  
そして、「概念」として私達に提示してくれる。  
音を通じた概念となっているのだ。

だから、ベートーヴェンの音楽は、心が動かされる。  
明日を生きていく「意味」を感じさせてくれる。

今また、しっかりとベートーヴェンを受け止めたいと思う。

仲道郁代

## 仲道郁代 [ピアノ] *Ikuyo Nakamichi, Piano*

桐朋学園大学1年在学中に第51回日本音楽コンクール第1位、増沢賞を受賞。ジュネーヴ国際音楽コンクール最高位、メンデルスゾーン・コンクール第1位メンデルスゾーン賞、エリザベート王妃国際音楽コンクール第5位と受賞を重ね、以後ヨーロッパと日本で本格的な演奏活動を開始。これまでに国内の主要オーケストラはもとより、マゼール指揮ピッツバーグ交響楽団、バイエルン放送交響楽団、フィルハーモニー管弦楽団、ズッカーマン指揮イギリス室内管弦楽団 (ECO)、フリーベック・デ・ブルゴス指揮ベルリン放送交響楽団、P.ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団など海外オーケストラとも多数共演。CDはソニー・ミュージックジャパンと専属契約を結び、最新CDは「ドビュッシーの見たもの」他、レコード・アカデミー賞受賞CDを含む「仲道郁代ベートーヴェン集成～ピアノソナタ&協奏曲全集」、「モーツァルト:ピアノソナタ全集」等、高い評価を得ている。著書に『ピアニストはおもしろい』(春秋社)等がある。2018年よりベートーヴェン没後200周年の2027年に向けて「仲道郁代Road to 2027プロジェクト」をスタートし、リサイタルシリーズを展開中。一般社団法人音楽がヒラク未来代表理事、一般財団法人地域創造理事、桐朋学園大学教授、大阪音楽大学特任教授。 オフィシャル・ホームページ <http://www.ikuyo-nakamichi.com>

©Taku Miyamoto

